



発行所  
徳島市雑賀町 東開21番地1  
一般財団法人  
**徳島県遺族会**  
TEL (088) 636-3212  
FAX (088) 636-3213  
http://izokukai.jp/  
発行責任者  
坂千代 克彦  
印刷  
グランド印刷(株)

# 新年のご挨拶

一般財団法人徳島県遺族会 会長 坂千代 克彦



明けましておめでとございます。

ご遺族の皆様におかれましては、新年を健やかに迎えられた事とお慶び申し上げます。

日頃より徳島県遺族会に對しまして、格別のご支援とご協力をいただき、改めて、心より厚くお礼申し上げます。

昨年は、コロナの収束を見通せないものの、会員の皆様のご協力をいただき、感染症対策を施しながら、

多くの事業が再開できた年となりました。

一月からの語り部事業、四月の役員等研修会、六月は県内三地区でのブロック研修会、また八月には全国戦没者追悼式への参列と、いずれも三年振りの実施でありました。さらに八月下旬には県郷土文化会館で県戦没者遺族大会、十一月の護国神社例大祭、千羽づる旅行と人数制限を行うことなく、広く会員の方々に参加を呼びかけ、ご参列いただきました。

コロナ前と全く同じとは参りませんが、今後も続けて行く方向性が見えてきたのではないかと考えております。

また昨年、県内各地区の多くの遺族会におかれては、戦没者追悼式、慰霊祭が本格的に実施されており、私も出来る限り参列させていただきました。各地区役員をはじめ会員の皆様が集まり慰霊を行うことは、何にも代えがたいものであり、その努力に頭が下がる思いであります。

戦没者遺児の平均年齢もいよいよ八十



歳を超え、高齢化が進んだ本会ではあります。引き続き遺児世代のご協力をお願いするとともに、次代を託す青年部活動の更なる活性化につつまして支援して参ります。

さて、来年は早いもので、護国神社が城山から遷座して二十周年となります。本会は、この節目の年を一つの契機として、遺児世代の皆さんとともに山本部長を中心とした青年部の活動をしつかりと支えながら、女性部の協力もいただき、「英霊の顕彰」「遺族の処遇改善」「組織の継承」「戦没者記念館の活動促進」「次世代への語り継ぎ」という五つの指標のもと、更に活動を進めて参りたいと思います。

また全国的課題では、令和七年度からの次回特別弔慰金の獲得、特に一年間の生計要件の撤廃に向けて、日本遺族会の力強い活動を求めるとともに、全国の遺族会と足並みを揃え進めて参りたいと考えております。

ご遺族の皆様におかれましては、引き続きのご理解とご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、令和五年の干支「癸卯（みずのと・う）」は、「これまでの努力が実を結び、勢いよく成長し飛躍する年」という意味であります。ご遺族の皆様にとりまして、本年がより良き年でありますことをご祈念申し上げます。新年のご挨拶いたします。

## 謹賀新年 令和五年元旦

徳島県遺族会

会長 坂千代 克彦  
副会長 上浦 喜代志

名誉会長 井上 晃

監事

専務理事 酒巻 英紀

事務局長 武田 光普

英霊にこたえる会 徳島県本部

事務局長 大平 敏之

徳島県護国神社

宮司 坂田 敏郎

事務局長 福口 博昭

事務局長 山本 一祐

事務局長 高木 永史

事務局長 正木 潔

事務局長 白川 高男

事務局長 亀代 孝彦

事務局長 谷戸 厚子

事務局長 瀬戸 信功

事務局長 佐々木 信之

事務局長 小笠原 一喜

事務局長 尾形 重幸

事務局長 稲原 重幸

事務局長 後藤 重幸

事務局長 神野 重幸

事務局長 赤瀬 重幸

事務局長 古瀬 重幸

事務局長 上田 重幸

事務局長 杉本 重幸

事務局長 緒方 重幸

事務局長 井上 重幸

事務局長 増上 重幸

事務局長 山本 重幸

事務局長 濱本 重幸

事務局長 林下 重幸

事務局長 木下 重幸

事務局長 池添 重幸

事務局長 近藤 重幸

事務局長 上浦 重幸

事務局長 坂千代 重幸

事務局長 坂千代 重幸

# 令和五年を迎えて

一般財団法人日本遺族会会長 水落敏栄



ご遺族の皆様にはお元気で新しい年をお迎えのことと拝察いたします。

日本遺族会は、昨年九月十二日、天皇皇后両陛下のご臨席を仰ぎ、創立七十五周年記念式典を挙行いたしました。天皇陛下より本会の活動に敬意を表すとのお言葉を賜り、遺族代表との懇談の機会をお持ちくださいました。

そして十月一日には、旧九段会館跡地に建設された九段会館テラスに本部事務所を移転いたしました。

記念すべき年に、両陛下より賜りました御心を誇りとし、今日までいただいたご支援にお応えすべく、本会は戦争の悲惨

さ、平和の尊さを後世に伝える社会的責務を果たす決意を新たにいたしました。

喫緊にして最大の懸案である組織の継承をより確実に行うため、来年度から戦後八十年に向けた組織継承三カ年計画を実施いたします。活動の軸は、「平和の語り部」であり、戦争を体験した遺児たちの貴重な体験、悲痛な思いを、確実に次世代へ繋げ、活動を拡大、普及させるため、青年部世代の語り部の育成に力を注ぐ中で、遺児から青年部へ記憶の継承を図るものであります。

戦後七十七年が経過し、戦後生まれが九割、遺児の平均年齢も八十歳を超え、時間に余裕はありません。非常に困難な道であります。この計画を実行に移せなければ、組織の存続が危ぶまれます。本部もあらゆる

手段を用いて、本会の理念、活動の意義を積極的に広報することに努め、遺族会活動の社会的意義を高める努力をいたしますので、どうぞ各支部におかれましては、お力添え賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、昨夏の参議院議員選挙では、たくさんのご支援、ご協力をいただきながら、ご期待に沿えなかったこと、偏に私の不徳の致すところとお詫び申し上げます。そして図らずも昨秋、旭日大綬章を受章いたしました。偏に全国のご遺族皆様のご指導、ご鞭撻の賜物と、衷心より感謝申し上げます。

私の最後のご奉公は、組織を青年部へ確実に継承する道筋をつけることだと覚悟し、粉骨砕身尽力することをお約束し、新年のご挨拶といたします。

## 第七十七回全国戦没者遺族大会の開催

令和四年十二月十二日(月)自由民主党会館(東京・自民党本部)において、本年度も規模を縮小し、全国の遺族代表者約三百名が参集して、第七十七回全国戦没者遺族大会が



開催された。本会からは、坂千代会長、濱副会長(女性部長)、事務局長の三名の参加である。

本年度の大会は、日本遺族会が七十五周年を迎えたものの、現会長の選挙結果が芳しくないなど大きな節目に開催されたものである。

会議は午後一時に開会し、国歌斉唱、御英霊への黙祷の後、会長挨拶、来賓祝辞(自民党麻生副総裁、松本総務大臣、加藤厚生労働大臣)と続いた。そして、以下のとおりの大会決議がなされた。

### 大会決議



議員等の靖国神社参拝の定着をはかること。  
一、戦没者遺族に対する処遇は、国家補償の理念に基づき支給すること。

一、戦没者等の妻に対する特別給付金を継続させること。  
一、遺児慰霊友好親善事業の付添い者への補助等、事業の拡充をはかること。

一、遺骨収集ならびに戦没者遺留品の早期返還をはかること。  
一、広報強化に努め、平和の語り部活動を通して組織継承をはかること。

大会終了後に、本会役員は国会議員会館に赴き、大会決議に加えて「令和七年度からの特別弔慰金の支給要件から生計関係を除くこと」を中心に、県選出国會議員に陳情活動を行った。今後も要望事項実現のため、粘り強く運動を続けていく所存である。

# お慶び

## 秋の叙勲 旭日単光章

令和4年11月3日 受章



徳島県遺族会 副会長  
板野郡遺族連合会 会長

近藤 隆弘 氏

## 厚生労働大臣表彰

令和4年12月7日 受賞



徳島県遺族会 元理事  
阿南市遺族連合会 理事

松原 良明 氏



徳島県遺族会 理事  
板野郡遺族連合会 副会長

白川 潔 氏



徳島県遺族会 元理事  
東みよし町遺族連合会 元会長

宮成 廣幸 氏

多年にわたり遺族会の発展と、会員の福祉の向上にご貢献をいただきました。心よりお慶びとお礼を申し上げます。



千羽づるの制作につきましては、本会女性部の代名詞とも言べきもので、お母さん方（戦没者の妻）の時代から脈々と続けられており、国内はもとより、海外慰霊巡拝でも、現地の慰霊碑に奉納されて参りました。

昨年十一月二十日(日)に、千羽づる奉納旅行が実施されました。当日の天候は雨との予報でしたが、見事に晴れ上がり、御祭神が見守ってくれていると感じられました。参加者はコロナ

対策のため、多くの希望者の中から四十七名の方となりましたが、早朝から大型バス二台に分乗して出発しました。千羽づるの制作につきましては、本会女性部の代名詞とも言べきもので、お母さん方（戦没者の妻）の時代から脈々と続けられており、国内はもとより、海外慰霊巡拝でも、現地の慰霊碑に奉納されて参りました。

### 令和四年度 千羽づる奉納旅行 く姫路護国神社参拝

このように歴史ある行事であります。今年度の奉納は改め、国内の護国神社に奉納させて頂くことと計画し、本年度で二回目となる旅行です。今年の行き先は兵庫県姫路護国神社で、千羽づるの奉納の後、正式参拝を行い、坂千代会長、林副会長、濱女性部長、山本青年部長から玉串を奉奠し、御英霊に感謝の誠を捧げました。その後、泉宮司様の講話をお聞きし、昼食会を経て、世界遺産である姫路城の視察や、バス車内からの姫路セントラルパークの見学など、学校時代に戻ったような気分楽しんでいただけたのではないかと思います。

今後のように、研修会・旅行など様々な行事を、出来るだけコロナ前と同じように、計画し実行して参りますので、遺族会会員をはじめ、幅広くご参加いただきたいと思っております。



今後とも、研修会・旅行など様々な行事を、出来るだけコロナ前と同じように、計画し実行して参りますので、遺族会会員をはじめ、幅広くご参加いただきたいと思っております。

### 東かがわ市大内地区戦没者遺族会が来館

東かがわ市大内地区戦没者遺族会の松下富美子会長をはじめ十九名が、十二月二日(金)徳島県戦没者記念館に来館しました。大内地区戦没者遺族会では、毎年香川県護国神社(讃岐宮)に参拝後、日帰り研修旅行を企画しており、コロナ禍で二年中止となっておりましたが、今回は三年振りの実施との事でした。皆さん初めての来館で、八千名を超える英霊の遺影に圧倒された様子でした。また、遺品・遺書などをゆっくりと熱心に見学され、「こんな近くに立派な記念館があるとは知らなかった」「徳島県の戦没者が約三万四千人と聞き、内八千人のお写真申し込み数に驚いた」「写真がない方は『桜の写真』と聞いて胸が詰まる思いです」等の感想を頂きました。



徳島県戦没者記念館 第14回特別企画展

# 長崎原爆展

観覧無料

戦後77年が経過した現在、世界で唯一の戦争被爆国として、核兵器の恐ろしさを次世代に伝えていく必要があります。当時の写真パネルや被爆資料など数々の貴重な資料によって、戦争と核兵器の恐ろしさ、そして生命の尊さ、恒久平和について考えます。



三菱兵器工場工場の被害



城山国民学校の被害



米軍が撮影したきのこ雲

写真はすべて長崎原爆資料館の所蔵

令和5年

1/15(日) ▶ 1/29(日)

平日 9:00~16:30

土・日・祝日 10:00~16:30

徳島県戦没者記念館 あしたへ

〒770-8021 徳島市雑賀町東開21-1

電話 088-636-3212 FAX 088-636-3213 <http://izokukai.jp>



駐車スペース 多数あります

展示内容

■写真パネル（原爆投下後の惨状を伝える写真等）

■被爆資料（長崎で実際に被爆した資料等）

■長崎原爆についての書籍の紹介

■映像上映（被爆証言、記録映像）など

主催 一般財団法人徳島県遺族会、徳島県戦没者記念館奉賛会  
協力 長崎原爆資料館、長崎平和推進協会、徳島県職員労働組合

## 徳島県戦没者記念館

### 第十四回特別企画展

# 「長崎原爆展」

戦後七十七年が経過した現在、世界で唯一の戦争被爆国として、当時の写真パネルや被爆資料など貴重な資料によって、戦争と核兵器の恐ろしさを次世代に伝え、生命の尊さ、恒久平和について考えていただくため開催致します。多数の方のご来館をお待ちしております。

### ホームページ随時更新中!!

(R4.12.28 現在)

アクセス数 132,036

各種行事、記念館の語り部事業、慰霊巡拝等の最新の情報をお知らせしています。

携帯・パソコンの検索欄に

徳島県遺族会 もしくは

徳島県戦没者記念館 と入力

ホームページのアドレス

URL <http://izokukai.jp/>

携帯電話のバーコードリーダーで右記QRコードを読み込んで下さい。



### 戦没者記念館だより

— 写真展示数 8,147柱 (R4.12.28 現在) —

#### ▶ 来館者のお声

- 来館して何より一番大切だと思った事は、もう二度と戦争しない為に、私達国民一人一人が協力することが大切だということです。来館して本当に良かったです。(10代女性)
- 遺影を拝見して、二度と戦争をしてはいけなと思いました。世界で唯一の被爆国として、ウクライナやロシアが戦争をしているのを見て辛くなります。これ以上、戦争をしてほしくありません。
- 多くの尊い命が失われた事を忘れずに、今を生きようと思いました。ありがとうございました。(40代男性)
- 息子にも何か感じるものがあるかと思い来場させていただきました。展示品も触れたりするので当時を感じられて良かったです。(30代男性)

令和四年度

### 日和佐護国神社

#### 例大祭

恒例の日和佐護国神社例大祭が、令和四年十月二十七日に挙行されました。ここには、明治以来の五百八名の御英霊を合祀しています。

遺族会役員ほか十一名が出席、宮司さんの祭文奏上に続いて、遺族会会長が祭文を読み上げたあと、役員の皆様が玉串を捧げて、戦没者の慰霊と平和な生活が続くよう祈願しました。

美波町日和佐遺族会会長  
高島 英生



## 語り部事業講演要旨

## ●第75回語り部事業 10月8日(土)

## 「父と大東亜戦争」

三好市三野町 水野 正則氏 (90)



私の父は明治41年生まれで18歳の時、徳島蔵本の43連隊に入隊しました。大正9年、陸軍少尉候補生制度ができ各連隊から1、2名選抜があり、昭和11年11月に東京の市ヶ谷にある陸軍士官学校に17期生(446名)で入校しました。翌年7月7日に日中戦争が始まり、同年9月に約2ヶ月早く繰り上げ卒業し、直ちに徳島へ戻りました。連隊は既に中国江蘇省へ行った後でした。家族は故里に戻り、父は後を追うように現地に出征し、父の任務は第1中隊第3小隊長でした。1ヶ月後10月14日に父は戦死しました。後から分かったことですが母の弟も43連隊で出征をし、父と戦場で偶然会い「今度の戦争ではおそらく私は生きて帰れない、帰ったら私の家族を頼む」と父からしきりに言われたそうです。父は死の覚悟を決めていたのだと思います。

私は県立図書館に古い新聞が残っていると聞き、当時の世相を調べたところ、昭和12年11月30日徳島毎日新聞に私の父親の写真、戦死と家族の状況についての記事を偶然見つけました。私の祖父が「息子は生きて帰れないことを覚悟の上、妻や子供達によく言い聞かせてある。これからは二人の孫を愛育し故人の遺志を継がせたい。」と語っていました。祖父は明治生まれで日清・日露戦争に従軍し、明治時代の人の気質そのものでした。映画は人間の精神を駄目にするとのことで禁止でした。また、祖父は『常日頃から勉強はしなさい』との教えで、私が中学生の時、試験前夜さえも家業の蚕の世話をしなければなりません。育ての父として、私を早く一人前にするため厳しくしたのだと思います。

昭和20年7月4日徳島大空襲の日、私の家から約70キロ離れた徳島方面は真夜中なのにまるで夕焼けのようでした。徳島市内の人達のことを思うと心配の気持ちで一杯でした。翌朝、私はいつものように吉野川の北岸から渡し舟で江口駅(現在の東みよし町中庄)へ行きました。昨夜の空襲で徳島から汽車は来ないかもしれないと思いましたが、2時間経って東から汽車が見えました。ただ蒸気機関車の配置が石炭車が前、機関車(運転席)が後ろと逆になっており、空襲の時、汽車が焼けないように徳島駅から客車を引っ張ってきていました。その運転手と助手の責任感の強さと勇気に感心しました。乗客を

見ると顔がすすだらけの人、川の中に入ったのか服がびしょ濡れの人で一杯でした。後から乗り込んだ私達は、その気持ちを察して言葉も掛けられませんでした。

昭和20年の秋、戦争に負けてから今も忘れられない出来事があります。毎日のように高知から高松の方に帰ってくる占領軍の兵隊を大勢池田の駅で見掛けました。高知からの汽車は池田に約5分停車、占領軍の兵隊が発車する直前に窓から反対側のデッキにいる沢山の中学生に目掛けて、約50個のチューインガムを放ります。それを中学生達が急いで取りに行き、ポケットに入れ帰ってくる。それを見た上級生の四年生(現在の高校1年生)が「お前達考えろ、お前達の行動は、地面に放られた物を急いで食べようとする犬と猫と一緒にだ！人間をやめたのか！国土は占領されているが、心の中までは占領されていない。お前達日本人である心を忘れるな！」と説教をし、乗客から拍手喝采が起きました。上級生は5月に高知に行き兵隊さんと同じ仕事をし、つい1ヶ月前まで一緒に生活をしておりました。だからこそ、あのような行動がとれたのだと思い、今も感服しています。

昭和24年私が高校2年生の時、終戦から何年かしてシベリアから兵隊さんが帰って来ました。三野町にもシベリアからの帰還兵さんが二十数名おりました。その中の一人と一緒に畑仕事をした時「シベリアで戦友を何人も埋葬したことは忘れない。帰る時、日本に帰れるという気持ちと埋葬した戦友が連れて帰ってくれと言っているようで複雑な気持ちになった。出征時は勝ってこいと壮行会をしてくれたが、負けて帰って来た。駅に着いたら人目に付かないよう家に帰ろうと思ったが、駅に着くと大勢の村の人達や中学生が迎えに来てくれて、大変驚いたし嬉しかった。」と語ってくれました。その話を聞き、帰還兵さんは複雑な気持ちを抱えている為、積極的に語る事が出来ないのだと思いました。

今から10年前、世界中の若者に「貴方の国が侵略されたらどうしますか」との意識調査で多くの国の若者が「軍隊と共に戦う」が70%との回答、日本は「自衛隊と共に戦う」が20%、「逃げる・降参する」が80%という結果でした。その時は平和になりすぎていることが原因かなと思いましたが、現在はウクライナ情勢のこともあり、日本の若者の意識も変わったでしょう。今後、戦争で亡くなった先人達の状況を教訓としてどう活かしていくか私達及び若者の重大な課題だと思います。

## 語り部事業講演要旨

## ●第76回語り部事業 11月12日(土)

「父からの便り - ミャンマーへの慰霊巡拝 -」  
勝浦郡勝浦町 清水 藤子氏 (85)



父は昭和19年1月23日午前0時30分、ミャンマー西部の町ブチドンのレト・ウエ・デットのさらに西方約1キロにある「ミツ瘤」と呼ばれる高地の戦場で戦死しました。数え年で32歳、私が6歳の時です。23歳で婿養子に来て何年もたたずに南方に出兵し、昭和13年2月には台湾の最南端の高雄でいました。帰国後は妹も産まれましたが、また昭和16年10月11日には召集され、昭和18年7月9日に坂出港から戦地へ出発しました。父との思い出で一つだけはっきりと覚えているのは、出兵直前、結膜炎になった私を自転車の後ろに乗せて、阿南市大野の眼科に行くために自転車ごと渡し船に乗った事で、父と出かけて船の乗れるのが楽しかった記憶があります。

昭和18年に祖父が亡くなり、私も学校に通いながら田や畑をしました。家は低い場所にあり、昭和25年の台風で勝浦川が氾濫し、我が家にも水がきました。台風後、母が買ってくれた今の家のある高い土地へ引越しました。母は1日中働いて98歳まで畑をしてくれました。母の人生は苦勞の連続で心から感謝しています。

そんな母キヌコも今から7年前、100才で旅立ち、葬儀後に父からのハガキが1枚見つかりました。母が大切にしまっており私が見るのは初めてで「毎日雨ばかりで、その日その日の生活を何日も送っている。この地で雨の降るたびに思い出すのは家のことだ。」と、家の周りが低くひどく雨が降ると浸水する事を心配してくれており、続けて「家族のこと、近所のことなどが思えてくるが、異国からは何も出来ない。ふるさとをもう一度踏めることは諦めるより他しかたない。この手紙を見してくれるのはいつの事だろうか。父母のこと、くれぐれも気を付けて欲しいと祈るばかりだ。」と書かれていました。長年、父の事はずっと頭の中にあり、父からの便りを読み「ミャンマーに行きたい、行かなければ」と思い始めていた頃、戦没者記念館でミャンマー慰霊巡拝のパンフレットを見つけ、参加を決めました。

寒さの厳しい1月17日、添乗員を含め16名で徳島を出発、前泊の関西国際空港のホテルで結団式を行い、気持ちを新たにしました。18日、ヤンゴンに8時間をかけて到着、「ようやく父の眠るミャンマーに着いた」と、気持ちが高ぶりました。翌19日、ヤンゴンで一番大きな「シュエ・ダゴン・パゴダ」で祈りを捧げた後、ヤンゴン第14小学校を表敬訪問しました。持参した文房具を贈呈

し、手作りの竹とんぼやお手玉で一緒に遊び交流を深めた後、ヤンゴン日本人墓地で全戦没者の慰霊祭を炎天下の中厳かに行いました。終了後は飛行機で中部の町バガンに向かいました。厳しいスケジュールで80歳を越えていたのは私一人でしたが、「他の誰よりも一番元気。重い荷物を背負っても一番歩くのが早い。」と言ってもらえ、元気に生んで育ててくれた父と母に感謝します。

1月20日は父の慰霊祭の日です。バガン日本人慰霊碑は広々とした所にあり、祭壇にミャンマーの国旗と日の丸を掲げ、供物や香華も捧げ、父の写真や故郷から持参した食べ物をお祀りしました。全員で黙祷しお焼香と献花を行った後、私は父に追悼の言葉を捧げました。

「私が、ここミャンマーの地で慰霊祭に参加できたのは、父の魂が呼んでくれたからだと思います。父、清水吉太郎は、ビルマ派遣軍第416部隊にて軍曹として、責務を懸命に果たしておりました。そのお陰で勲章を数々頂いて居りましたね。お父さん、頑張ったんだね。ご苦勞様でした。藤子はうれしいです。お国のため、みんなのため、家族のためにと一生懸命に働いてくれたのですね。ありがとうございます。お父さん、御出征されてからの家系を報告します。おばあさんとお母さんの事は、お父さんの所に旅立ちましたのでよくご存じですね。私は昭和31年、20才の時結婚して4人の子供に恵まれました。男子ばかりです。お父さんが生きていたら大変喜んでくれたらうな、と思うとつらいです。子供は皆、無事結婚し、それぞれ孫が出来ました。男子7人、女子2人の9人です。孫の2人は結婚してひ孫が5人出来ました。男子4人、女子1人です。皆、元気で育っていますのでご安心して下さい。お父さん、藤子ももう82才です。これからも一生懸命に出来る限り頑張りますので見守り下さいませ。」

父へ言葉を捧げた後、皆で「ふるさと」を歌いましたが、言葉に詰まり声になりませんでした。午後は仏教寺院を回り、最後に高い塔の上からバガンの仏教遺跡群の向こうに沈む真っ赤な夕陽を鑑賞しました。翌21日は北東のマンダレーに向かい、サガインヒル日本人慰霊碑で締めくくりの慰霊祭を行い、夕方遅く帰国、関西国際空港に22日の8時30分に到着しました。疲れていましたがおつとめを果たしたとの気持ちでした。

国の命令に従い戦場に赴き命を捧げられた方々への慰霊は世界の国々では最も重要な行事であります。私達は平和のありがたさを子や孫に語り継ぎ、今ある日本の安全な暮らしは父たち戦没者の犠牲の上に築かれている事を忘れる事なく生きていきたいと思ひます。

地方だより



**令和四年度 海陽町戦没者追悼式の開催**

令和二・三年度とコロナ禍のため中止となりましたが、令和四年度は私たち遺族の希望を町当局が受け入れて下さって、海陽町戦没者追悼式が十月二十三日に挙行されました。追悼式は、町長による献花と式辞で始まり、谷崎会長及び来賓の献花と追悼の言葉があり、遺族の献花によって式は終わりました。コロナが依然として収束せず、ウクライナ情勢が収まらない中であって、追悼式を挙行して頂いたことに、遺族として誠に有難く存する次第です。

令和四年になって、町遺族会に青年部ができました。現在の部員はまだ二人ですが、青年部の亀井さんの提案と企画及び準備によって、海陽町戦没者資料展が実施され、追悼式の開始前と終了後には、遺族と来賓の方々ははじめ多数の参観者があり、好評であったとの評価を聞いています。来年も実施の予定です。

海陽町遺族連合会



**令和四年度 神山町戦没者追悼式の開催**

令和四年十一月八日、神山町農村環境改善センターで令和四年度神山町戦没者追悼式が行われ、戦没者に祈りを捧げました。

式典の中で、後藤町長は「現在の私たちの豊かな暮らしは、戦争によって失われた多くの尊い命の上に築かれていることを決して忘れてはなりません。先の大戦で、戦没者の皆様が尊い命をもって示された戦争の悲惨さと、平和の尊さを風化させることなく、次の世代へ語り継いでいくことが、私たちに課せられた使命であると共に、恒久平和は人類共通の願いであります。」とあいさつし、参加者が献花台に白菊を捧げました。

最後に神山町戦没者遺族を代表し、神山町遺族会林会長がお礼の言葉として、「戦争の悲惨さと、戦争は悲しみだけを残すことを若い人たちに伝え、絶対に戦争を起こさないという気持ちをもって、生活して欲しい」とのあいさつがあり、追悼式は無事終了しました。

神山町遺族会



**令和四年度 吉野川市戦没者追悼式の開催**

令和四年度吉野川市戦没者追悼式が令和四年十一月十九日に吉野川市嶋島公民館において執り行われました。

各地区遺族会員、来賓を含め約二百人が参列し、戦没者二百五十八柱の御霊の冥福を祈りました。

式典では、後藤田会長及びご来賓の方々の献花と追悼の言葉とともに、中学生代表として吉野川市立山川中学校3年生杉本こうさんより、「戦争で犠牲になった人々の思いを受け継ぎ、終戦後の日本から立ち上がった人々と同じように、私たちも平和のバトンを受け継ぎ、必ず後世に伝えていきます。これからも、戦争と平和について学び続け、自他の命を大切に、真の平和の実現を願い、全力で生きていきます」と力強い追悼の言葉をいただきました。

最後には、参列者全ての方が献花を行い、御霊のご遺徳を偲び、哀悼の誠を捧げました。

吉野川市遺族連合会

特別弔慰金の請求手続はお済みですか？

令和5年3月31日が請求期限。忘れずご請求を！

申請は各市町村役場の援護担当課まで

令和5年度  
徳島県遺族会の主な行事 (予定)

3月の理事会で正式に決定いたしますが、来年度前半の大きな行事予定は次のとおりです。

役員等研修会

日時：令和5年4月30日(日) 13:00～  
場所：徳島グランヴィリオホテル

全国戦没者追悼式(1泊2日)

日時：令和5年8月14日(月)～15日(火)  
場所：靖国神社・日本武道館ほか  
※本年度はご遺族であれば、参加回数の制限なく申込みできます。

徳島県戦没者追悼式

日時：令和5年8月27日(日) 13:00～  
場所：あわぎんホール(徳島県郷土文化会館)

百歳のお慶び

長尾 キクエさん(鳴門市)



鳴門市瀬戸町堂浦地区遺族会会員の私の母、長尾キクエが、令和4年11月15日に百歳の誕生日を迎えました。

母は8人兄弟の次女で、男兄弟5人は出征し、2人は戦死され、3人は復員されました。

父は戦地の傷病が原因で、内地で昭和25年6月に亡くなり、

母は戦後人々の生活が大変な時期に、幼子一男一女を育ててくれました。大変苦勞したそうです。

現在は、長男の私夫婦と同居しており、嫁さんに食事等いろいろ気を遣ってもらっています。今はデイサービスが楽しみで職員さん、利用者さんとカラオケやおしゃべりをして過ごしています。

昨年は孫・曾孫から白寿のお祝い品を届けてもらい嬉しいと喜んでいました。

堂浦地区遺族会会長 長尾俊行

語り部事業のご案内 (護国神社参集殿で開催)

●第78回 1月14日(土) 13:30～14:30

「私の生き様について」 元木 坦氏(78)(板野郡松茂町)

氏の御父様はフィリピン国クラーク地区で戦没されております。激動期の御母様との生活、また、戦後の暮らしなどについてお話いただきます。

●第79回 2月11日(土) 13:30～14:30

「拡散型の平和構築ー被爆地の事例からー」 川本 翼氏(34)(広島平和文化センター研究員)

国際情勢が緊迫する中、戦争体験や原爆被害の実相を次世代につなぐことが課題とされています。被爆地における事例を中心に、平和を拡散させるための取組についてお話いただきます。

●第80回 3月11日(土) 13:30～14:30

「飛べなかった予科練生」 阿部 保夫氏(93)(吉野川市山川町)

氏は、昭和19年に15歳で松山海軍航空隊に入隊されました。飛行予科練習生として猛訓練を受け、特攻隊志願、そして終戦。氏の実体験をお話いただきます。

●第81回 4月8日(土) 13:30～14:30

「(演題は調整中)」 武市 寛氏(81)(阿波市阿波町)

氏の御父上は、フィリピンのルソン島ハパオで戦死されました。氏が調査された父の軍歴・叙勲、お母様のルソン島への慰霊巡拝、また氏と御家族による現地での慰霊祭などについてお話いただきます。

遺族会の動き

令和四年十一月～十二月実施行事

(十一月)

- 2日 護国神社例大祭(護国神社)
- 12日 正副会長会(護国神社)
- 12日 語り部事業(護国神社)
- 12日 戦没者記念館運営企画委員会(護国神社)
- 17日 父の像清掃(徳島中央公園)
- 20日 千羽づる奉納旅行(兵庫県姫路護国神社ほか)

(十二月)

- 2日 東かがわ市大内地区遺族会来館(記念館)
- 10日 語り部事業(護国神社)
- 12日 全国戦没者遺族大会(自民党本部)
- 16日 勝浦町立生比奈小学校来館(記念館)
- 29日～31日 記念館は休館

令和五年一月～三月行事予定

(一月)

- 14日 正副会長会(護国神社)
- 14日 語り部事業(護国神社)
- 15日～29日 特別企画展・長崎原爆展(記念館)
- 24日 日本遺族会事務局局長会議(九段会館テラス)
- 25日 日本遺族会女性部長会議(九段会館テラス)
- 28日～30日 日本遺族会青年部研修会(鹿児島県)

(二月)

- 4日 青年部による兵庫県遺族会との交流会(神戸市)

(三月)

- 11日 語り部事業(護国神社)
- 26日 理事・監事・評議員等研修会(護国神社)
- 11日 正副会長会(護国神社)
- 11日 語り部事業(護国神社)
- 11日 戦没者記念館運営企画委員会(護国神社)
- 中旬 父の像清掃(徳島中央公園)
- 26日 理事会・記念館奉賛会総会(護国神社)
- 29日～30日 春の靖国神社参拝旅行(東京都内)